

「日本全薬工業（株）企業研修会」報告書

1. 目的

- （１）経営革新に取り組む企業を訪問し、企業・組織の素晴らしさをベンチマーキングする。
- （２）県外の経営品質向上プログラムに取り組む企業と交流を持つことで気づきを得る。

2. 日程

月日	時 間	内 容
11/13 (木)	14:00 ～	◆日本全薬工業様訪問 <平成24年度 日本経営品質賞経営革新推進賞受賞> 研究開発～販売までを手がける動物薬専門メーカーから、取り組み開始後わずか5年目で経営革新推進賞受賞に至った経営品質向上活動の推進体制や施策、活動を通じての変化や成果等について学ぶ。 森尾 常務のご講演と 新工場見学
	18:30 ～ 20:30	懇親会 ～日本全薬工業（株）様・お二人を交えて～

3. 内容

◆日本全薬工業さま訪問

昨年は、経営品質向上活動の推進体制から、若手社員を巻き込んで実践していく具体的な仕組みまでを、体系的に紹介していただきました。今年は、カクカテゴリーごと深く活動の内容やツールについても、お話を頂きました。昨年度から、よりステップアップされた活動も多く、受賞組織の進化の様を見せていただきました。



2011年に被災し今年4月に竣工したばかりという新社屋を訪問。今年完成した新工場も見学させていただいた

日本全薬工業（株）様の創業から現在までのビデオの後、森尾常務より、経営品質向上活動を各カテゴリーごとにご説明頂きました。従業員700名アセッサーは現在25名、今年は審査員も1人輩出とのこと

	
改善部会に参加される方は 50 人を越え、現在は制限しているとのことです。	カテゴリー 1 :リーダーシップ部会の若手社員が中心となって作成した「ゼノアック・クレド」の表紙

4. 【参加者の感想（抜粋）】

- ・会社理念は、理念研修などではなく 毎日活用する”クレド”や”車座会議、定例の職場の会議に”経営層がお邪魔させてもらって、考え方を話すことで浸透していく。というご助言が理念浸透を深く意識し活動されている証のように思いました。
- ・「戦略策定のチェックリスト」「チェック&レビューシート」など役立つツールを教えていただき大変役立った。
- ・アセッサーが増える＝基準書の意味を理解する人が増える。今まで、何をやった、何をやったの連続だったが、重要成功要因達成のために、何に気づき、何を変えたか大事だと気づき、自ら考え自ら活動する環境づくりに注力されているということお話し頂き、少なくとも幹部は基準書の理解が必要だと感じた。
- ・セルフアセスメントを自社と第3社評価を交互にすることの大事を更に理解できた。
- ・組織プロフィールを記述することが、社内の根底にある意識の共有になることが更に理解できた。まだ毎年記述しているわけではないので、挑戦してみようと思う。
- ・記念品 ありがとうございます。もう動物だけではなく、人間の医療にも役立つ製品に挑戦されていることを知り、進化に感動しました。
- ・経営品質活動を推進する時、どうしても実務と2重になってしまい、推進者や従業員に負荷をかけてしまい、今こんなに忙しいのにと反対されることもあった。1活動にすること、達成感を味わってもらうことなど、いいヒントいただけた。
- ・CC経営推進室を設置され、経営層が自らが率先され取り組んでいることこそが、素晴らしい活動と成果に繋がっていると強く認識しました。

5. 組織別参加者数

会社・団体名	参加
米屋株式会社	1名
京葉ガス株式会社	3名
株式会社不二精工	2名
千葉県経営品質協議会	1名
合 計	7名

以上
(報告：運営委員 真板 秀雄)